

問

52 歳男性。朝起きた時に吐物で枕が濡れるようになり近医を受診した。半年ほど前より前胸部のつかえ感を自覚していたが他に症状なく医療機関にはかからなかった。呑酸はない。膀胱癌の既往がある。意識は清明。身長 177cm、体重 65kg。

体温 36.5℃ 脈拍 70 回整。血圧 120/70mmHg。眼瞼結膜と眼球結膜に異常は認めない。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で肝・脾を触知しない。

血液所見:赤血球 447 万, Hb 14.0g/dL, 白血球 7,220, 血小板 21 万,

血液生化学所見:アルブミン 3.7g/dL, 総ビリルビン 0.6mg/dL, AST 15U/L, ALT 10U/L, LD150U/L, クレアチニン 0.9mg/dL, 空腹時血糖 85mg/dL, Na 141mEq/L, K 4.0mEq/L, Cl 100mEq/L

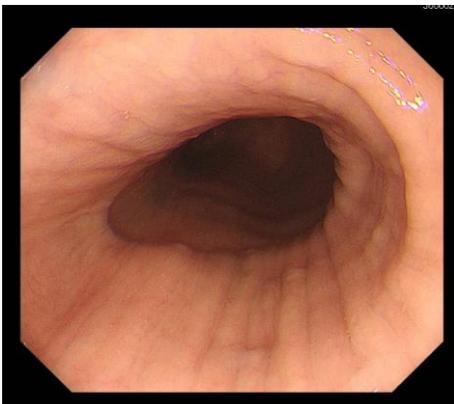
問 1

行うべき検査はどれか **3つ** 選べ

- a 食道 X 線造影
- b 超音波内視鏡検査
- c 食道内圧測定
- d 大腸内視鏡検査
- e 上部消化管内視鏡検査

問 2

上部消化管内視鏡像および食道 X 線造影像を次に示す。





考えられる疾患はなにか

- a 食道アカラシア
- b 胃食道逆流症
- c 食道裂孔ヘルニア
- d 食道癌
- e 機能性ディスペプシア

問3

対応として最も適切なのはどれか

- a 経過観察
- b 経口内視鏡的筋層切除術
- c 抗菌薬投与
- d 化学放射線療法
- e プロトンポンプ阻害薬投与

【解答】

問1 a,c,e

問2 a

問3 b

問

65 歳男性。クローン病再燃に対する治療検討目的に当院を受診した。

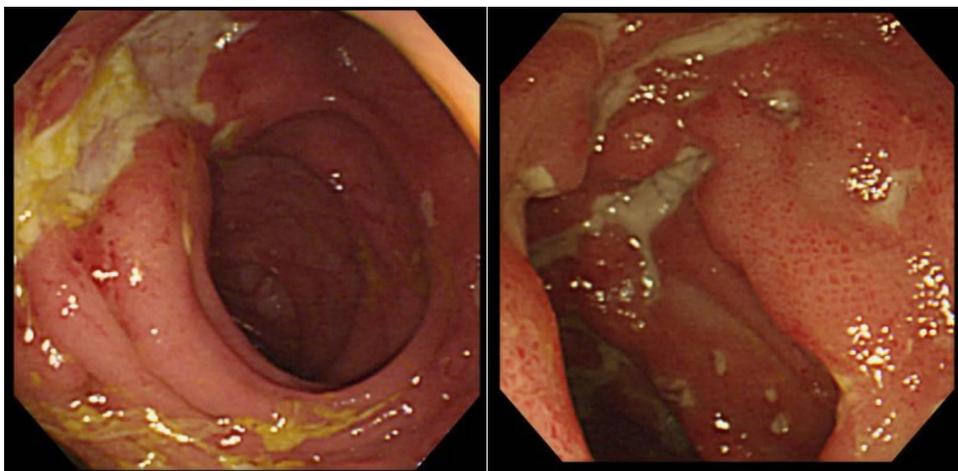
20 代の頃下痢と便秘を繰り返し近医受診したところクローン病と診断された。治療により寛解維持していたが 40 代頃に激しい腹痛が生じ近医受診、腸閉塞と診断され小腸部分切除術が施行された。その後も近医にて加療されていたが慢性下痢と腹部膨満感が持続したため当院紹介受診となった。

血液所見:赤血球 330 万, Hb 9.5g/dL, 白血球 9,800, CRP 7.0mg/dL

問 1

この患者の下部消化管内視鏡像を次に示す。

認められる所見はどれか



- a 連続性病変
- b 敷石像
- c 輪状潰瘍
- d 偽膜形成
- e 縦走潰瘍

問 2

この疾患に対する初期治療として適切なものはどれか **3つ選べ**

- a 生活指導
- b 副腎皮質ステロイド投与
- c アスピリン投与
- d 抗結核薬
- e メサラジン(5-ASA 製剤)投与

問3

この患者に追加する治療として適切なのはどれか

- a インフリキシマブ(抗 TNF- α 製剤)投与
- b H₂ブロッカー投与
- c ラミブジン投与
- d ゲフィチニブ(抗 EGFR 抗体)投与
- e H.pylori 除菌

【解答】

問1 e

問2 a,b,e

問3 a